

<1>一般選抜

(1)一般入学試験 前期・後期

◆選抜方法

本学で学ぶうえで必要な学力を評価するために、3 科目または 2 科目(国語、英語、日本史、世界史、現代社会・政治・経済、数学)の学力試験を課し、一部の科目については外部試験(みなし得点)制度を認め合否を判定する。

◆学力試験 出題の意図

国語	<p>今回の試験では、評論、随筆(エッセー)、小説の三分野から幅広く出題し、多角的な読解力と論理的思考力を判定することを意図しました。評論および随筆においては、文章の内容を正確に捉える客観的読解力を重視し、文脈を的確に把握して接続詞等の語句を選択できるか、基本熟語を正確に理解しているかといった基礎的な語彙・構文能力を問うとともに、文章内に散在する情報をその属性に基づいて分類・整理する体系化能力や、ある時点までの情報に基づいて論理的な帰結を導き出す推論能力を評価しました。加えて、文章の進行に伴って増大する情報を、順序立てて一貫性を持って理解できているかも確認している。小説では現代小説を取り上げ、登場人物の行動や発言、情景描写を通して心情を的確に読みとる力を中心に、登場人物同士の関係性の正確な把握、作品全体を貫くテーマの理解、文章表現上の特色を説明できる能力も併せて判定しています。これらを通じて、断片的な知識に留まらない、統合的な国語能力の習熟度を確認することを目指しました。</p>
英語	<p>I. 長文読解 300～400 語程度の英文を読み、内容を正しく理解できるかを問います。文章の大まかな流れをつかむ力と、重要な情報を読み取る力の両方が必要です。</p> <p>II. 資料読解 図表やポスターなど、日常生活で見かける資料に示された情報をもとに、英語の質問に答えたり、英文を完成させたりする力を問います。</p> <p>III. 会話表現 会話文の空欄に入る最も適切な表現を選ぶ問題です。会話の流れや話し手の意図を理解し、文脈に合った自然な表現を選ぶ力が求められます。</p> <p>IV. 英文作成(語句整序) 語句を並べ替えて、日本語に合う英文を作る問題です。基本的な文の形や語順を正しく理解しているかを問います。</p> <p>V. 文法・語法 文の意味に合う語句を選ぶ問題です。文法や慣用表現の基礎知識が必要です。</p> <p>VI. 語彙 英語の意味説明をもとに適切な語を選ぶ問題です。基本的な語彙力を問います。</p> <p>これらの問題では、英語の基礎的な力を総合的に確認します。日頃から英文を読む習慣をつけ、語句や表現、文の仕組みを意識して学習することが大切です。</p>

2025 年度入学試験 選抜方法について

日本史	<p>出題される時代は原始・古代／中世／近世／近現代の 4 つの時代区分すべてで、基本的な知識を確認する。それぞれの時代の政治や経済、外交の動き、文化や芸術など幅広い分野を問う。それぞれの分野が他の分野と関わっており、相互連関のなかで捉えることで、時々の時代は理解できると考えているからである。また例年史料問題も出題しており、エビデンスに基づく歴史理解の力も確認している。</p>
世界史	<p>高等学校で学んだ世界史について総合的に深く理解、習得できているかどうかを問う試験問題としている。教科書・用語集に準拠して出題している。古代から現代に至る時代、地域全般の史実について、あらゆる角度から出題している。世界史全般にわたって、史実を深く理解できているかどうかを問う試験問題としている。政治、経済、社会、文化、宗教などについての内容や状況、特徴について、あらゆる視点から理解できているかどうかを問う試験問題としている。世界史全般にわたって、幅広い教養、知識が身につけているかどうかを問う試験問題としている。大学での世界史の授業を理解できる論理的な考察力、思考力が備わっているかどうかを問う試験問題としている。</p>
政治・経済	<p>政治・経済の基本的問題に対する判断力や、政治や経済の諸問題を考える力の基礎となる知識を習得できているかどうかを見ようとしています。教科書や資料集に掲載されている範囲からの出題を基本としていますが、時事的な問題についても取り扱うことがあり、教科書で学ぶ知識と関連させて学ぶことができているかも見えています。</p>
数学	<p>出題に当たっては、計算力が身に付いているか、高校で学んだ基本事項を理解しているか、さらに、基本知識を応用する力や数学的に考える力が備わっているかをみることを意図している。試験問題は 4 つの大問 (I～IV) で構成されている。大問 I は、「数と式」と「データの分析」を中心に 出題されており、基本的に独立した小問集合である。大問 II は「2 次関数」、大問 III は「場合の数と確率」、大問 IV は「図形と計量」から出題されている。これらも小問に分かれているが、前の設問で求めた結果を後の設問で用いることもある。問題は出題範囲の各分野からバランスよく出題されており、いずれの問題も教科書の例題や練習問題にしっかり取り組んでいけば十分に対応できる難易度である。解答はすべてマークセンス方式である。計算結果の数値や記号をマークする問題と、問題で与えられた選択肢の中から適切なものを選んでマークする問題がある。</p>

2025 年度入学試験 選抜方法について

(2) 大学入学共通テスト利用 前期・後期

◆選抜方法

本学で学ぶうえで必要な学力を評価するために、大学入学共通テストで受験した科目(3科目)及び、一部の科目については外部試験(みなし得点)制度を認め合否を判定する。なお、本学独自の学力試験は課さない。

(3) 海外留学一般入学試験 前期・後期

◆選抜方法

本学における海外留学を必修とする教育課程で学ぶうえで必要な能力を評価するため、一般入学試験に面接・口頭試問を組み合わせ実施する。面接・口頭試問においては、目的意識や適性等の確認及び多面的評価(表現力、論理性、理解力、積極性等)を行い、合否を判定する。

◆学力試験 出題の意図

国語	※一般入学試験「国語」と同様である。
英語	※一般入学試験「英語」と同様である。

<2> 学校推薦型選抜

(1) 指定校推薦入学試験

◆選抜方法

本学で学ぶうえで必要な高等学校での学習の達成度を確認するための調査書と、面接・口頭試問において多面的評価(表現力、論理性、理解力、積極性等)を行い、合否を判定する。

(2) 協定校推薦入学試験

◆選抜方法

本学で学ぶうえで必要な高等学校での学習の達成度を確認するための調査書と、面接・口頭試問において多面的評価(表現力、論理性、理解力、積極性等)を行い、合否を判定する。

(3) 系列校推薦入学試験

◆選抜方法

本学で学ぶうえで必要な高等学校での学習の達成度を確認するための調査書と、面接・口頭試問において多面的評価(表現力、論理性、理解力、積極性等)を行い、合否を判定する。

<3>総合型選抜

(1)AO入学試験 前期・後期

◆選抜方法

本学で学びたいという強い意欲及び目的意識や適性等を確認するために事前審査を実施し、出願を許可する。書類審査において、調査書から高等学校での学習の達成度の確認を行うとともに、面接・口頭試問において、多面的評価(表現力、論理性、理解力、積極性等)を行い、合否を判定する。

(2)スポーツ活動実績利用入学試験 前期・後期

◆選抜方法

本学で学びたいという強い意欲及び目的意識や適性等を確認するために事前審査を実施し、出願を許可する。書類審査において、調査書から高等学校での学習の達成度の確認を行うとともに、面接・口頭試問において、多面的評価(表現力、論理性、理解力、積極性等)を行い、合否を判定する。

(3)資格利用入学試験

◆選抜方法

書類審査において、調査書から高等学校での学習の達成度の確認を行うとともに、証明書類から資格・検定の取得実績を確認し、面接・口頭試問においては、多面的評価(表現力、論理性、理解力、積極性等)を行い、合否を判定する。

(4)全商協会資格利用入学試験

◆選抜方法

書類審査において、調査書から高等学校での学習の達成度の確認を行うとともに、証明書類から資格・検定の取得実績を確認し、面接・口頭試問においては、多面的評価(表現力、論理性、理解力、積極性等)を行い、合否を判定する。

2025 年度入学試験 選抜方法について

(5)公募制入学試験 前期・後期

◆選抜方法

本学で学ぶうえで必要な高等学校での学習の達成度を確保するための基礎テスト(国語と選択科目<英語、日本史、現代社会、数学>)と調査書(全体の「学習成績の状況」を点数化)及び、取得した資格(資格を点数化)の組み合わせにより合否を判定する。

◆基礎学力テスト 出題の意図

国語	<p>大問一は、おもに文章の読解力を問う問題である。社会学、心理学、哲学に関する一般的な評論文やエッセー、または小説などを題材とし、筆者の主張や書かれている内容を適確に理解できているかどうかを確認することが目的である。文章中の漢字の読み書き、言葉の意味、指示語が指す内容など語彙や表現に関する問題も出題する。</p> <p>大問二から大問四は、国語表現力や語彙力、ことばに関する知識を問う問題である。四字熟語や慣用句、故事成語やことわざに関する知識およびそれらの用法、漢字の読み書きに関する知識を問うさまざまな形式の小問から構成される。著作物や新聞・雑誌、社会生活のなかで使われる言葉の意味や用法を正確に理解できているかどうかを確認することがその目的である。</p>
英語	<p>I. 空所補充(英文法) 平易な短文を構成する上で不可欠となる、基礎的な英文法事項の定着度を測る。正確な英文構成能力の土台が備わっているかを確認することを目的とする。</p> <p>II. 会話文選択 対話における文脈を的確に把握し、論理的な流れに合致する適切な応答を選択できるかを問う。日常的なコミュニケーションにおける、自然な英語表現の運用能力を確認する。</p> <p>III. 空所補充(イディオム・句動詞) 英文読解や表現において頻出するイディオムおよび句動詞の知識を問う。単語単体の意味のみならず、語の組み合わせによる意味の変化を理解し、適切に活用できる能力を測定する。</p> <p>IV. 整序英作文 平易かつ典型的な文型(基本文型)の理解度を問う。語句を正しく配列し、論理的な英文を構築できる基礎的な構文把握能力を確認する。</p> <p>V. 適訳選択 字面通りの表面的な理解に留まらず、文脈やニュアンスを汲み取り、英文が意図する内容を日本語で的確に捉え直す「内容理解の正確性」を確認する。</p> <p>VI. 長文読解 平易な語彙・構文で構成された論理的かつ具体的な文章を用い、全体の主旨(大意)の把握から、細部における情報の正確な読み取りまで、多角的な読解力を総合的に評価する。</p>

2025 年度入学試験 選抜方法について

日本史	<p>全 4 問の構成で、第 1 問(原始・古代)、第 2 問(中世)、第 3 問(近世)、第 4 問(近代)と、時代順に幅広く出題される。設問は各 10 問の計 40 問。解答方式は、20 個の選択肢からなる語群から適切な語句を選ぶ形式である。</p> <p>政治、経済、社会、文化の各分野から出題し、特定の分野に偏ることなく、バランスの取れた出題を基本方針としている。なお、史料問題が含まれることがあるが、いずれも教科書に基づく基礎的な事項が中心である。難問よりも、教科書レベルの基礎的な重要事項を問う設問が中心となる。</p> <p>受験生へのアドバイスとしては、教科書をていねいに読み込み、単なる暗記ではなく、歴史の連続性を理解すること。重要な人名、年号、地名、文化財・作品名などは確実に押さえておくこと。教科書の本文を読むだけでなく、掲載されている史料や地図にも目を通しておき、関連付けて理解を深めてほしい。</p>
数学	<p>基礎的な数学の理解を確認するために、数学 I の全範囲と数学 A の「場合の数と確率」を出題範囲としており、全 20 問の小問形式で出題している。小問①～⑤は「数と式」や「データの分析」から、⑥～⑩は「二次関数」から、⑪～⑮は「図形と軽量」から、⑯～⑳は「場合の数と確率」からそれぞれ出題している。問題の難易度は、教科書の章末問題レベルに設定している。</p>

(6)海外留学公募制入学試験 前期・後期

◆選抜方法

<p>本学における海外留学を必修とする教育課程で学ぶうえで必要な能力を評価するため、公募制入学試験に面接・口頭試問を組み合わせ実施する。面接・口頭試問においては、目的意識や適性等の確認及び多面的評価(表現力、論理性、理解力、積極性等)を行い、合否を判定する。</p>

◆学力試験 出題の意図

国語	※公募制入学試験「国語」と同様である。
英語	※公募制入学試験「英語」と同様である。

<4>その他の入学試験

(1)社会人入学試験

◆選抜方法

社会人を対象に、書類審査において、調査書から高等学校での学習の達成度の確認を行うとともに、面接・口頭試問において、多面的評価(表現力、論理性、理解力、積極性等)を行い、合否を判定する。

(2)外国人留学生入学試験

◆選抜方法

外国籍を有する者を対象に、日本語の筆記試験書類審査において、本学で学ぶうえで必要な日本語能力を確認し、面接・口頭試問において、目的意識や適性等の確認及び多面的評価(日本語力、向学心、熱意等)を行い、合否を判定する。

(3)編入学試験・転入学試験 前期・後期

◆選抜方法

書類審査及び面接・口頭試問において、目的意識や適性等の確認及び多面的評価(表現力、論理性、理解力、積極性等)を行い、合否を判定する。